

遠山郷いい川づくり

意見交換のコメント

- ・かぐら大橋から上流、カジカはかなり増えている。
- ・カジカは昔から棲んでいたが、昔よりも生活雑排水が少なくなっているのに、最近増えてきている。
- ・学校にプールが無い頃は、中学校の対岸あたりで水泳をしていた。
- ・上流部にイワナが棲んでいる。この辺にはイワナはいない。あとウグイが棲んでいる。
- ・アユはいるが最近放流したもの、ダムが無かった頃は天然が天竜川から上がってきていた。
- ・ダムができる前はウナギもいた。今はいない。
- ・木材の搬出が盛んで、昭和の初め頃までは川を利用して木材を運んでいた。
- ・親水公園も作ってもらえるのか。→（回答）最終的な整備をするときにそういう話もでてくるかも知れない。予算もあるので難しいかもしれない。
- ・遠山中学の裏からビニールの裏まで河床が1m位下がっている。南和田の方へ行くとその分河床があがると。大町の辺。いい川づくりを始める前に、帯工を入れるなどして、川の安定を考えておいてほしい。
- ・中学校のところに頭首工を造ってから、上流の河床は安定している。
- ・中橋に以前入れた巨石を並べた所（帯工）は効果がある。
- ・夜川瀬の護岸工がなめらかで、その下流は真ん中に流れている。
- ・洪水時はゆきのかわ？にぶつかって中学校にくる。
- ・中橋には温泉の導水管がある。
- ・川近くに住んでいると、家から川の水面が見えた。今か河床が下がって見えない。
- ・昔は川に降りるよりも行くという感覚。
- ・グラウンド周辺は堤防が低かった。川の右側は無い所もあった。中学校付近で当たって、センター付近にあたり、中橋付近にあたり、老人ホームのあたりに当たって。水流があがるとぶつかるような感じで流れている。
- ・昔、今の建設省の庁舎の所に遠山川の支流が流れていて、昔カジカを捕りにいっていた。増水時には支流にも水がながれていたんじゃないか。
- ・遠山川は荒れ川で、川岸や川すみの主なところ、水があたる所などには水神様を祀っている。
- ・遠山中学校の裏に水神様が祀ってないのは、いつも流されてしまったためだと思われる。

- ・川は昔、お寺の方を流れていた。遠山地震があって出山が崩れて川を押した
- ・夜川瀬は、浄化センター付近で土石流が起き、一晩で堆積したところ。
- ・和田の平地は、もともと河原であった。掘ると赤石がでる。
- ・最近の水防などで消防が出動するような事はない。
- ・終戦後に乱伐した時は、水が一気に流れてくることがあった。40～60年代に山作りをして、その時の木が大きくなってくると、山が安定してきたので、以前のように水が一気に流れてくるようなことは少なくなってきたと実感できる。効果はあったと思う。昔は黒水だった。
- ・昔は流木が流れてきていたが、国交省の堰堤等で流れてくることはなくなった。
- ・昔は川が綺麗だったので、よく水遊びをした。中学校前は淵になっていた、水の当たるところ。夜川瀬の方から廻っていった。
- ・昔は子供が多かったし、子供の心配もしなかった。
- ・いま堤防にあるソメイヨシノは50年近くなるのであと10年保つかどうか。
- ・温泉からはカワズサクラあればまだいい。
- ・桜以外でもよいので、年に少しずつでも植樹していけば素晴らしい所になる。
- ・桜以外で観光になるものや、秋など観光になるものがあるといい。
- ・昔は、河川敷など近道になるよう自分たちで橋（土橋 木を3, 4本括ったもの）を作って渡っていた。
- ・橋が流れても戻せるように紐がくくりつけてあった。近道だった。
- ・昔、川は身近だった。今は護岸などで川がしっかり区切られているが、昔は生活そのものの中に川が入っていた。だから大水などがくると川の増水などで今より被害が大きかった。
- ・堤防ができてから桜を植えた。桜を植えてから災害は皆無。
- ・36年、40年の災害（中学校から建設省まで水が流れた）後に、堤防を造ったので、今老人ホームなど建てられるようになっている。昔なら建てない。
- ・保育園のある所も切れて災害になったことがある。

南信濃自治振興センター 木下さんより

昔の川

- ・ 大きな石がいっぱいあり、大きな淵がたくさん出来ていた。
- ・ いつも河原に子供が遊んでいた。
- ・ 鮎、うなぎ、カジカ、山女、岩魚、ウグイ、アカザ等の魚がたくさん棲んでいた。
- ・ 川に捨て針を仕掛けて、うなぎや大きな山女を獲っていた。
- ・ 石にカジカの卵がたくさん産み付けられており、それを採取して魚釣りの餌として使っていた。
- ・ 子供も大人も魚捕り、魚釣りに興じていた。
- ・ 川にウシを組んで堰き止めて大きなプール代わりの淵を作った。
- ・ 川を使って木材の搬出をしていた。
- ・ 川の水を使って農業が盛んに行われていた。
- ・ 川の水を町中に井水として取り入れ、防火用水・生活水として生活に密着した利用をしていた。
- ・ いつも川が氾濫していた。
- ・ 川の水がもっと多かった。
- ・ 川と生活区域の鮮明な境界がなかった。
- ・ 川岸を車や人が自由に通行できた。
- ・ 河原で花火が打ち上げられていた。
- ・ 河原に水神様がいくつも祭られていた。
- ・ 各地区でどんど焼きが盛大に行われていた。
- ・ 霜月祭りの面をかぶる人の清めに川が使われていた。(夜中に川に入り身を清めた)
- ・ 川に簡単な橋を作り自由に往来していた。(地区を結ぶ近道として利用)
- ・ 川原に野鳥がたくさん棲んでいた。特にカワセミ、ヤマセミが生息していた。